

〔国際会議〕

申 請 者	群馬大学大学院 工学研究科 准教授 弓仲 康史	2025013
研究集会名	第43回 IEEE 多値論理国際シンポジウム (IEEE ISMVL2013)	
開催期間	平成25年5月22日～5月24日	
開催場所	富山国際会議場大手町フォーラム	
申請者の役割	プログラム委員長	

概 要：

「多値論理国際シンポジウム (ISMVL)」は、IEEE コンピュータソサエティ主催の多値論理に関する最も権威のある国際会議である。第43回を迎える今年のシンポジウムは、平成25年5月22日から3日間にわたり、富山国際会議場で開催された。多値論理は、通常の2値以上の信号表現に基づく情報処理技術であり、既にUSBメモリの多値記憶およびファジィ論理を用いた制御等に実用化されている。本会議は、代数・論理等の数学者からハードウェア技術者、プログラマに至る広い分野の研究者が内外より参加し、アットホームな雰囲気での技術討論が可能な点が大きな特徴であり、今回は93名（日本から58名、海外より35名）の参加者があった。

本国際シンポジウムでは、3件の招待講演および56件の一般講演が行われた。Martin Goldstern 教授（ウィーン工科大）のŁukasiewicz 論理に関する招待講演および木村啓明博士（ローム株式会社）による不揮発ロジックに関する招待講演が行われた。さらに、“Computational Medical and Health Care Technology”と題する畑豊教授（兵庫県立大学）の招待講演が行われ、ファジィ論理の医療応用に関する興味深い講演内容が参加者の注目を集めていた。一般セッションにおいても、近年注目されているスピントロニクス素子の多値応用による超低消費電力回路技術等、多値論理に関する学際的な議論が行われた。特に、2値の限界を打破する可能性を探索し、人間と機械の調和のとれた豊かな情報化社会、グリーンエネルギー社会の実現を目指す多値情報処理技術が本シンポジウムにおいて活発に討論された。